



共生社会の実現に向けて

三重県知事 一見勝之



新年あけましておめでとうございます。昨年9月、私は、県民の皆様のご信任をいただき、三重県知事に就任いたしました。三重に生まれ育った私は、国での35年の行政経験を生かして、県民の皆様のご負託に応えるべく、鞠躬尽力（きっきゅうじんりょく）し、県政の課題に取り組んでまいります。

県では、本年、三重の強みや魅力を生かし、三重の未来につなげるため、新たに約10年間の県政運営の道筋を示すビジョン「強じんな美し国ビジョンみえ」および2026年度を目標年度とする計画「みえ元気プラン」を策定いたします。

人口減少・高齢化の加速、新型コロナウイルス感染症の長期化などにより、暮らしや経済の先行きが見通せない状況が続いています。引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を注視し、対策に万全を期すとともに、地域経済の再生・活性化に注力してまいります。

また、県では、昨年「みえ障がい者共生社会づくりプラン」を策定し、共生社会の実現を目指し、

「SDGs（持続可能な開発目標）」の考え方を取り入れるとともに、ICTの導入等による新型コロナウイルス感染症拡大への対応や、権利の擁護など、県がさまざまな主体と連携しながら総合的に取り組んでいくこととしています。

特に、障がいを理由とする差別の解消に向けては、「障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例」の普及啓発や障がい者への理解の促進に向けた取組を進めているところです。昨年5月、障害者差別解消法が改正され、今まで努力義務となっていた事業者による合理的配慮の提供を義務化するとともに、行政機関相互の連携の強化を図ることとなっており、3年以内に施行される予定です。県では障害者差別解消法の改正を踏まえ、障がいの有無によって分け隔てられることなく、互いに人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて取組を進めてまいります。

結びに、本年の皆様のご多幸とご活躍を祈念し、新年のあいさつといたします。

新年のごあいさつ

公益社団法人 三重県障害者団体連合会 会長 世古佳清



新春を迎え、新型コロナウイルス終息を願いつつ、心新たな一步を踏み出されたことと、お慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、共生社会の実現に向けた絶好の機会と捉えていた三重とこわか大会が残念ながら中止となり、また感染防止に向けた対策により、開催できない事業も一部ありましたが、三重県身体障害者福祉大会と三重県障がい者芸術文化祭は、観覧者など規模を一部縮小しながらも開催することが出来ました。ご協力いただきました関係各位には、心から御礼申し上げます。

さて、私たちを取り巻く環境においては、昨年5月に障害者差別解消法の一部を改正する法律が成立し、施行は3年以内となっておりますが、これまで努力義務にとどまっていた事業者による合理的配慮の提供が法的義務となり、行わないことが差別となりました。また、行政機関相互の連携強

化を図り、障がいを理由とする差別を解消するための支援措置を強化する内容でもあり、事業者および地域間格差なく周知徹底され、実施されることが肝要であると、三重県身体障害者福祉大会においても宣言されました。障害者相談員や公的機関窓口にご相談ください。

新型コロナウイルスはまだ予断を許さない状況が続いておりますが、今年はコロナに負けずに、各種スポーツ教室、青年部講座、交通安全教室、福祉大会、芸術文化祭などの事業を開催し、相互の親睦と健康維持に努めていきたいと思っております。

私たちは全国の仲間と連携し、障がいにより分け隔てられることなく地域で安心して暮らせる社会の実現に向け取り組みます。

結びに、皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

三重県知的障害者育成会

「知的障害の定義」がないことへの不信

障害名が転々と変更されていったのが私たちの子どもの現在『知的障害』といわれる障害名の表示です。

まず、第一に症状が18歳までに現れた人が対象となるというのが基本です。

名称として私に記憶がある頃には『知恵遅れ』といわれてそのランクは「白痴・魯鈍・愚鈍」と中学校で習ったというものです。

その後、『精神薄弱者』と変更され、ランクは「軽度・中度（中等度）・重度・最重度」となりました。

全国に障害当事者が活動する「本人の会」ができて全国大会が本人たちで実行委員会を作って、サポートを受けながら開催されるようになった時に、障害のある方々から『精神薄弱』といういい方は「意志薄弱」と思われるけど、私たちにも意思はあるという声が起こって親たちからも子どもの意見を受け入れて障害名の変更運動へとつながりました。

知的障害と表記されるようになった前に当時の（社福）全日本精神薄弱者育成会が調べた中に見つけたものが、医学的には『精神遅滞』『知的発達障害』となっているというものでしたが、身体障害に比べて長い名称であることから『身体障害』と同じように『知的障害』がいいかなあ〜と思って名称変更の働きかけで全国の育成会の意見を聞いたときに投票した覚えがあります。

全日本精神薄弱者育成会の名称も知的障害に変えようとしたところ法律に則って運営されている社会福祉法人だから法律にない名称への変更は認められないとの国の方針が示されて、会ができたとき名乗った『手をつなぐ親の会』から取って全日本手をつなぐ育成会と名乗って今に続く会名になっています。

しかし、その後も各障害者福祉法には障害の定義があるにも関わらず「知的障害」に関する法律『知的障害者福祉』には障害定義が書き込まれていない状態は解消されずにきています。

しかも、知的障害があると受け取る「療育手帳」も法的な根拠が書き込まれていないのが『知的障害者福祉法』となっています。

後発の精神障害者保健福祉手帳は、きちんと精神障害者保健福祉法に障害名の定義と同じく規定されています。

障害者の法律ができたのは、戦争で身体的な傷害のある復員兵が路上でアコーディオンを弾いて物乞いをしてる状況に対して国会での議論から国のため

に戦った挙句、身体的障害のある人達にあのようなことをさせていいのかという議論から法律ができ、その方たちを支えるために社会福祉協議会ができたこと記憶しています。子どもの頃に新聞で読んだこの記憶です。（記憶違いだったらごめんなさい。）

しかし、私たちの子どもは社会的にも認められない存在だから定義もしなければ、手帳も各都道府県が発行すればいいものだという扱いでいいのでしょうか？

手帳発行の基準も概ねIQ70以下となっていますが、一部には75或いは80での発行もあり、県境を越える住所変更時には、判定からやり直して手帳の発行を申請しなければならず、障害程度の境界域の方にとっては、転居の度に障害程度が変わることがあり得るという理不尽さ。それが、私たちの上部団体が全国統一の国の規定による手帳発行への昇格を要望する行動を阻んでいると思いますが、移行にあたっては現所持者が不利益を被らないようにしながら、順次、新規発行申請者へは新基準を用いて発行とすることを旨として前へ進んでほしいと願います。

これらの解決策も模索せずに放置されることは、国民の福祉の向上をうたっておきながら知的障害がある方は国家が庇護すべき「国民」ではないということなのでしょか？なんとも腹立たしいことです。

育成会活動で理事になるよりも前のPTA活動に身を投じるずっと前からずっとずっとこの理不尽な状況を打破できるのは一体いつまで待てばいいのか？と悔しさいっぱい過ぎてきました。

理事長 高鶴かほる

事務局 ☎ 059-225-3930 F AX 059-225-3935

E-mail:oyanokai@eos.ocn.ne.jp

HP <http://www.mie-ikuseikai.sakura.ne.jp>

三重県精神保健福祉会

令和3年度の前半も新型コロナウイルス感染拡大防止への対応のため、3密の回避を余儀なくされ、様々な行事が延期・中止となりました。

さんかれん（三重県精神保健福祉会）も桑名保健所圏域で計画していた精神保健福祉研修会も延期となりましたが、年度内には形が変わった内容で研修会を開催したいと考えております。

令和3年度の活動としては、年度後半において

- ① 精神保健福祉研修会等で、多くの地域の皆さんへ精神障がいに対する正しい知識の普及を図るとともに、精神障がいを持つ当事者・家族の方と交流する機会により、当事者の方々の持っている魅

力やパワーを肌で感じていただくことを目的に予定しております。

- ② 住居サポート事業の活動を積極的に行い、住宅保証人受託増により精神障がい者の生活の質向上に貢献しています。また、家族による家族相談、家族同士のサロンによって家族が元気に当事者を見守り支えることができ、当事者支援の一助としております。
- ③ 啓発広報資料「あゆみ」の配布によって、地道な家族会活動の周知を図るとともに、広く県民の目に触れ、「精神障がい」について「知っていただく」ことに取り組みます。
- ④ 甲州・東海地区における家族会研修会に積極的に参加し、当事者および家族間の意思疎通を図ります。

等を実施することで精神障がい者に対する誤解・偏見および三障害間の格差の是正に積極的に取り組みます。

以前から申し述べているように、精神障がい者が、地域で安全で安心し社会参加できる環境の促進を図るうえで精神障がい者に対し、身体障害者、知的障害者と同様の福祉が得られるよう、要望活動に傾注して行きたいと考えています。(交通費の割引制度の適用対象、医療費の助成等)

特定非営利活動法人 三重県精神保健福祉会
(さんかれん)

事務局 ☎・FAX 059-271-5808
E-mail:sankaren@mint.or.jp



三重県聴覚障害者協会

2021年度前半(2021年4月~2021年12月)の事業は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年度同様自粛・延期・中止が相次ぎ、それに伴う事務処理や各部の活動停滞など大変な時期でありました。人と人が触れ合うことが当たり前であった日常が変わり、コロナ禍においてどのようにして地域協会や関係団体と関わっていくのか、従来の協会活動をどう行うかを考えていかなければなりません。こんな状況の中ですが、6月16日(水)高齢部講演会&茶話会(津)、7月10日(土)第38回東海女性部幹部研修会、7月11日(日)第47回東海女性討論会(桑名)、7月11日(日)スポーツ交流会「フライングディスク会」(津)、10月16日(土)「第74回三重県聴覚障害者福祉大会」(いなべ)、11月14日(日)三重ろう文化祭(津)、11月20日(土)スポーツ講習会

「カローリング教室」(津)の他、青年部の勉強会4回、11月22日(月)には旅行企画「日帰り旅行」(滋賀方面)を順調に実施できました。また、今年度は役員任務2年が満了となり改選の年であるため、青年部・女性部・体育部、各地域協会でも同様に役員改選を行ないました。

しかし高齢部の敬老会&茶話会、みえ女性フォーラム、女性部ハイキング企画は新型コロナウイルス感染症拡大のため、残念ながら中止となりました。「三重とこわか国体・大会」も延期申請せず開催中止が決定になったことで、全国から訪れる聴覚障がいのある方、選手等を手話・筆談、要約筆記により、情報提供やコミュニケーションの支援でおもてなしの心でお迎えすることができず、はなはだ遺憾に存じております。今後、三重とこわか国体・大会を目標にしてきた情報支援ボランティアたちが、頑張ってきた心の灯を消すことなく各方面で活躍できるようお祈りしたいものです。

当協会の会員数は2020年度の288名より9名減の279名、賛助会員は昨年度より2名減少の106名(12月20日現在)となりました。コロナ禍で会員相互の情報共有、意見交換など様々な交流ができない現状なので、書籍の情報や行事のお知らせ、行事の実施報告や楽しいゲームなどを提供できるように工夫し、毎週金曜日にYouTube動画を会員たちやサークル会員向けに楽しく分かりやすく編集し配信してきました。

今年度で理事任務期間が満了となります。新年度に向けて新しい体制に変わり、ゼロからまた学び直したいと思っています。現在高齢社会になっていますが、組織の理念を重んじ歴史と伝統を受け継ぐとともに、その時代の経験を確実に後世に引き継ぐ事が必要ではないかと思えます。

これからも、さまざまな困難があると思いますが、関係団体の皆さまとともに活動していけるよう、ご指導とご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

事務局 ☎ 059-229-8540 FAX 059-223-4330
E-mail:deaf.mie@viola.ocn.ne.jp

HP <http://deafmie.cocolog-nifty.com/blog/>

三重県視覚障害者協会

新年を迎え、皆さまにおかれましては、健やかにお過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、三重県視覚障害者協会の活動に対しまして、深いご理解と温かいご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

三重県視覚障害者協会におきましては、視覚障害者が交差点を安全横断するために、音響式信号機のさらなる増設及びスマートフォンにBluetoothで交差点名称や歩行者用信号機の状態を音声で提供し、交差点の安全な横断を支援するシステムのさらなる新規設置並びに歩行における安全確保のための誘導ブロックの整備等について、三重県に対し要望をしております。

また、県内の視覚障害者の方々が、より円滑に日常生活が営まれるよう、三重県から三重県視覚障害者支援センターの指定管理を受けております。支援センターでは、点字図書・音訳図書などの図書館等情報サービスや、白杖を使った歩行訓練及び音訳の情報支援機器の操作訓練などの生活訓練をはじめ、様々なサービスを行っているほか、点訳・音訳ボランティアの育成にも取り組んでおります。是非、三重県視覚障害者支援センターのホームページをご覧くださいと存じます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により、支援センターの館内サービスを一時休止したほか、残念ながら中止・延期をせざるを得ない事業もあり、利用者の皆さまに大変ご不便をおかけいたしました。現在も細心の注意を払い、支援センターの運営及び事業継続をさせていただいておりますが、まだまだ気が抜けない状況にあるといえます。このような中で、視覚障害者の皆さんの外出機会が減っているかと思いますが、利用者の皆さんのご要望に応えられるよう、引き続き、日々努力を重ねてまいります。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、実り多き年になりますよう、心から祈念申し上げるとともに、協会並びに支援センターをご支援いただきますことをお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人 三重県視覚障害者協会
三重県視覚障害者支援センター
☎ 059-228-3463 FAX 059-228-8425
Email mieten@zc.ztv.ne.jp

HP <http://www.zc.ztv.ne.jp/mieten/p/>
☎・FAX・Emailは協会、センター共用

三重県知的障害者福祉協会

新年明けましておめでとうございます。

昨年度は、コロナ禍にあつて「三重とこわか大会」の開催は中止となりましたが、こうした事態にもかかわらず障害者社会参加促進事業の活動を通じ、当協会に種々ご支援を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

当協会では感染防止に対する呼びかけや感染時のための防護用品の備蓄・提供に加え、感染事業所への応援職員派遣の備えを三重県との「覚書」によって取組んできました。

そうした中、昨年5月に会員事業所においてクラスターが発生し、協会から当該事業所の要請により、十数名の職員を派遣させていただきました。応援職員の派遣においては会員事業所に対する職員の派遣依頼、当該事業所での業務、応援職員の感染防止対策、宿泊施設の確保、派遣終了後の健康観察、派遣にかかる費用などへの対応を行ってきました。

こうした取組から様々な教訓を得るとともに多くの課題も見えてきました。同時にとりわけ入所系の事業所においては感染防止対策の強化もとより感染をクラスター化させない、つまり「クラスター発生防止対策」の強化が重要であることを痛感しました。

そこで当協会では各事業所におけるクラスター発生防止対策の状況についてアンケート調査を実施し、現状把握に努めてきました。そして、その結果を今後の防止対策に生かしていきたいと考えております。

また、長期化するコロナ禍にあつて各事業所では、利用者の方々が様々な制限を余儀なくされている状況に対して、いろんな工夫や努力により可能な限りの日常を取り戻せるよう取組んでいただいております。

オミクロン株による第6波の感染拡大が懸念されている中、今年度は協会並びに各事業所において従来通りの事業が実施できるよう会員事業所一丸となつて努力していきたいと考えております。

会長 近藤 忠彦

事務局 ☎ 059-268-1115 (まもり苑・本弘)

三重喉友会

当会は創立67年目になり、現在会員数は67名です。喉頭や食道の摘出手術を受け、発声機能を失った方々のための患者会です。発声教室で訓練をして日常会話ができるようになり、社会や職場に早く復帰されることが目的です。

この他、健康相談や親睦の場としても活発な活動をしています。

このような患者会は全国にあつて、NPO法人日本喉摘者団体連合会に加盟しており、各団体は互いに情報を交換しながら協力しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により各病院での発声教室は休校となっています。

新規の教室として県身体障害者総合福祉センター

で土曜日（利用可能時月2回）で開校しています。早く感染拡大が収束して、各病院とも利用可能になり、例年のように活発な活動が出来るように全会員が願っています。

◆発声教室

毎月県内の病院で開催しています。

- ・北勢地区 市立四日市病院1階 11会議室
第一水曜日 13時～15時
- ・中勢地区 三重大学附属病院南館12階
三医会ホール
第三木曜日 10時～12時
三重県身体障害者福祉センター
研修室（利用可能時）
土曜日（毎月2回） 14時～
- ・南勢地区 伊勢赤十字病院1階 山田ホール
第二木曜日 10時～12時
- ・東紀州地区（偶数月）
尾鷲総合病院1階 母親教室
第四木曜日 10時30分～12時
- ・会員の方は自由にお近くの教室に参加して下さい。

◆研修会

- ・発声指導員養成のための研修会が、毎年3日間行われ一般会員の方も参加できます。
- ・県外から発声指導のために講師を招き、集中的な訓練により成果が上がる研修会も行っています。

◆総会（発声教室、研修会）今年度は中止しました。毎年春に三重大学附属病院で開催されます。発声訓練の成果として「発声コンクール」を行います。

◆一泊研修旅行 今年度は中止しました。

先輩からの手術後の体験談や、会員の悩み等を話し合ったりして親睦を深めています。

会員による発声コンクール（カラオケ大会）を行います。

◆出前授業

三重県教育委員会からの要請で県内の小・中・高等学校の生徒対象に「がん教育」として三重県内の病院の教授、医師と共にがん体験者としての講演をしています。

◆三重県がん相談支援

三重県がん相談支援事業の一環として、三重喉友会もがん患者団体としてサポーター協力しています。

事務局 ☎・FAX 059-261-5257（塚本明雄）

Eメール aki0350@zb.ztv.ne.jp



日本オストミー協会三重県支部

新年おめでとうございます。

日頃はオストメイトの福祉向上にご支援とご協力を戴き有難うございます。

高齢会員が多いので新型コロナウイルス感染防止を最優先として、令和3年度に計画した行事はすべて中止としました。

コロナ禍もようやく小康状況となって一息ついたところですが、新種のオミクロン株への感染報告が日々増加しており、まだまだ先が見通せません。

令和4年度の行事は、次のとおり予定していますが、新型コロナウイルス感染の状況等を勘案して開催の可否を決定していきます。

【令和4年度の予定】

- ・5月 「支部総会・春の研修会」
会場：アスト津 13時～
- ・7月 「一泊研修会」 宿泊地：鳥羽市内ホテル
- ・10月 「秋の研修会」 会場：アスト津 13時～
- ・11月 「一泊研修会」 宿泊地：鳥羽市内ホテル
- ・令和5年3月 「新入会員研修会」

会場：アスト津 13時～

「春と秋の研修会」には、WOC認定看護師や専門医をお招きして講話をいただき、ストーマケアをはじめとする質疑応答を行う予定です。

「一泊研修会」は「温浴施設での入浴」を通じて自信を持って社会に適應していける等、QOL（生活の質）向上のために参加者それぞれの経験や知見をもとに話し合いを行っています。

「新入会員研修・懇談会」は、ストーマケアや日常生活での注意点等を中心として、WOC認定看護師や経験豊かなオストメイトとの質疑応答でできるだけ早く社会適應が出来ることを目指しています。

会員でなくともストーマケアに不安のある方は、出席してご相談ください。また、オストメイトはご家族のご協力があって始めて快適なストーマ生活が過ごせます。ご家族でのご参加を歓迎いたします。

☆注 (1)ストーマ …腹部に造設した人工肛門・膀胱のことを言います。

(2)オストメイト…ストーマを造設した人のことを言います。

(3)WOC（ウォックナース）…皮膚・排泄ケア認定看護師のこと。創傷（Wound）・ストーマ（Ostomy）・失禁（Continence）にかかわる専門知識、技術を有すると認定された看護師。



連絡先 支部長 ☎ 059-346-2589 (溝川紳一)
事務局 ☎ 059-226-5201 (在間敏明)

三重心臓を守る会

この2年近く対面での活動がままならない状況ですが、先日Zoomを使ってのリモート運営委員会を開き、会の今後などについて話し合いました。又11月には他県支部によるZoom医療講演相談会があり三重支部からも数名参加しました。遠くにいながらこういった機会が得られる事は大変有意義だと感じています。元々病児の親の会ではありますが、その殆どが成人となりました。救命救急講習会や、子ども同士の交流会など実際に集っての行事も勿論必要ですが、今後はこういったツールも上手く取り入れながら、病児自らが考え、自身の心と体を守って欲しいと思います。そういった思いから支部報以外の情報提供の場としてSNSを活用することとなりました。

事務局 ☎ 059-255-4661 FAX 059-256-0802
(西村信子)

三重県肢体不自由児(者)父母の会連合会

あけましておめでとうございます。また、日頃から肢体不自由児者の福祉向上にご支援いただいている関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今年もよろしくお願ひ致します。

コロナ禍において、ワクチン接種により感染者が秋口より減少し、唯一恒例の日帰りバス旅行を2年ぶりに県内開催しました。40名の参加者には久しぶりの外出で大変喜んで頂きました。また、日常生活においては、県内の障害者支援施設等での感染は殆どなく、生活介護事業所などの施設は、関係者の感染対策により利用する事ができました。

また、会員からの感染者もなく、家族とも元気に過ごすことができました。

障害者福祉においては、2021年6月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」(「医療的ケア児支援法」)が成立し、9月に施行されました。

医療的ケア児支援法は、医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、医療的ケア児の健やかな成長を図ると共に、その家族の離職を防止する目的で作られました。この法律が施行されることにより、これまで改正障害者総合支援法で各省庁および地方自治体の「努力義務」とされていた医療的ケア児への支援が「義務」となります。地域によって格差の

あった支援体制の是正が期待されます。

この2年間の自粛生活や多くの行事が中止されたことは、長い団体活動の中で初めて経験する事であり、これからの活動を進める上で大きなダメージになったことでもあります。今年こそはコロナ終息を祈るばかりです。

事務局 四日市市南垂坂町810-47 (鈴木)
☎・FAX 059-333-0005

三重県重症心身障がい児(者)を守る会

私達を守る会のこの半年間の活動についての報告と今後の活動について、コロナがようやく収まり安堵した所ですが、又変異株が出現しワクチン接種の早期完了と飲薬の完成がまたれます。重症心身障害施設への早期接種要望を国に請願しております。三重県の守る会の活動については、会員の年令の高齢化リスクでほとんど活動停止状態でしたが守る会本部活動については活発に国、特に厚労省に対して障害者施策に対し要望を出しており、又予算審議委員に出席し意見をのべております。今後の活動については約50年続いています“守る会”活動を引き続きやって行く予定ですが、地道に基礎自治体との連携、各医師会、地元コミュニティ、特別支援学校等との意見交換、そして連携を通して障がい児者への偏見差別を無くし、国民の一員として受け入れられる様活動していく所存です。その為の医療講演会、一泊研修等も計画しております。「最も弱いものをひとりももれなく守る」が私達を守る会の原則です。声なき声は国まで届きませんので、地道に50年続けた諸先輩の成果をこれからも続けて行きますので皆様のご協力よろしくお願ひ致します。

会長 山本静雄

☎・FAX 0596-23-0216



三重県身体障害者総合福祉センター

謹んで新春をお祝い申し上げます。

障害者支援施設としては、主に15歳から65歳未満の方で、脳血管障がいや交通事故などで肢体不自由や高次脳機能障がいのある方に対して、入所・通所による支援を実施しています。また、自立訓練(機能訓練)は県下で唯一の施設であり、自動車訓練等特色ある取り組みを実施しており、多職種連携による生活支援及び就労支援を推進し、社会復帰に向け総合的に取り組んでいます。

身体障害者福祉センターA型としては、各種相談の実施、介護保険・医療保険によるリハビリテーションの実施、障がい者スポーツの推進などを行っています。令和3年開催の第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止となりました。

しかし、これまでの取組を通じて、障がい者スポーツに対する関心が高まってきており、今後も継続して選手育成、団体競技の強化、指導員・競技役員等の養成を行っていきます。

また行事やイベントがコロナ禍により中止や延期になることもありますが、三重県指針や各競技団体において作成したガイドラインに沿って感染症対策を行いながら運営を行っています。

※団体競技の車いすバスケットボール、グランドソフトボール、聴覚障がい者バレーボール男女、知的障がい者ソフトボール、知的障がい者フットベースボール、知的障がい者バスケットボール男女、知的障がい者バレーボール男女、精神障がい者バレーボールの選手を募集しています。未経験の方も歓迎していますので、スポーツを始めたい方、仲間作りをしたい方は、ぜひお問い合わせください。

事務局：三重県身体障害者総合福祉センター
☎ 059-231-0155 FAX 059-231-0356
HP：https://www.mie-reha.jp/

三 重 難 病 連

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

三重難病連は現在21（2団体活動休止）の当事者団体で構成されており、三重県難病相談支援センター事業を県から受託して運営しています。

2月のRDD（世界稀少・難病性疾患の日）に合わせ、難病による障がい者の方やその家族、地域住民等を対象とした講演会・交流会を実施しております。

このイベントが難病患者と社会や地域住民とをつなぐ架け橋となり、稀少・難治性疾患の認知度向上になることを期待しております。

○疾患別相談（毎週火・木曜10時～16時）

三重難病連に加盟している団体の相談員が療養相談や生活相談をお受けします。同じ病気の方々の悩みや、様々な問題について同じ立場で一緒に考え、問題解決のお手伝いをします。疾患によって担当日が決まっておりますので、詳しくは下記の三重県難病相談支援センターへお電話でお問合せ、またはホームペー

ジでご確認下さい。

○就労相談

三重県難病相談支援センターでは、就労支援の担当がお仕事に関するご相談を受けています。また、毎月第4金曜10時～16時には、ハローワークの難病患者就職サポーターによる相談・支援も実施しています。※都合により時間が変更する場合がございます（TEL 059-223-5045）

○小児慢性特定疾病に関するご相談

お子様のご病気に関しての困りごと・お悩みについて、担当の相談員がご相談をお受けします。（TEL 059-223-5046）

【三重県難病相談支援センター】

TEL 059-223-5035

<http://www.mie-nanbyo.server-shared.com/>

三 重 県 立 特 別 支 援 学 校 長 会

旧年中は本県の特別支援学校の教育活動にご支援・ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

世界的規模で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、特別支援学校の教育活動に多大なる影響をもたらしました。三重県緊急事態措置に伴い、9月に入ってから約1か月間、特別支援学校ではオンライン学習やプリント課題等による在宅学習を実施するとともに、自宅等において一人で過ごせない児童生徒の居場所の確保も行ってきました。

特別支援学校におきましても、新しい生活様式を踏まえた新しい学校生活が定着し、授業や学校行事で様々な感染防止対策を講じてきました。マスクの着用、校内消毒が日常となり、暑い夏や寒い冬でもエアコンをつけながら換気することも徹底した学校生活となっています。全ての授業ではありませんが、ICT機器を活用して活動場所を分散し、蜜状態を避ける対応も進めています。昼食場面では、対面を避け、黙食となるよう留意しています。

また、修学旅行では実施時期・行先・活動内容の変更がなされ、校外学習においては公共交通機関・公共施設の利用や外食体験を控えた学校もありました。現場実習の実施においても、感染症対応に関わる新たな対応が求められる状況もあったと聞いています。

コロナ禍の影響で変化した面が多々ありますが、児童生徒に不安を抱かさないように留意し、教育の質を落とすこともなく、また、児童生徒同士の関わりも

重要視しながら教育実践を行ってきています。執筆時点で、以前のような「通常」といえる学校生活が少しずつ戻ってきてはいますが、今後も気を緩めることなく、感染防止対策を徹底した教育活動を継続していこうと考えています。そして何よりも、新型コロナウイルス感染症の克服を祈念してやみません。

特別支援学校各校は、安全で安心できる学習環境の整備、アセスメントに基づいた指導計画作成と教育実践、地域での暮らしの充実、並びに、各地域における特別支援教育のセンター的機能の充実のために、保護者、関係団体や地域との連携を今以上に強化した上で取り組んでまいります。

事務局：三重県立特別支援学校西日野にじ学園
☎ 059-322-2558 (坂本 学)

独立行政法人高齢・障害・求職者 雇用支援機構三重支部

三重障害者職業センター

- ①一般企業で働くことを希望する障害のある方に対して、ハローワークや関係機関と連携し、就職への準備を整えるための相談・職業準備支援、就職した職場に適應するためのジョブコーチ支援、休職している方の職場復帰のための支援などの各種支援を行っています。
- ②事業主の方に対して、障害者雇用の進め方や雇用管理に関する相談・支援を行っています。
- ③障害のある方の就労支援を行っている関係機関の方に対して、就労支援に関する助言や研修などを行っています。

【お問合せ】津市島崎町327-1 (ハローワーク津3階)
☎ 059-224-4726 FAX 059-224-4707

高齢・障害者業務課

- ①事業主の方に対しては、障害者雇用納付金制度に基づく納付金申告申請書・調整金支給申請書等の受付や相談を行っています。
- ②三重県・三重労働局の共催のもと「三重県障害者技能競技大会 (アビリンピックみえ)」を開催しています。令和3年6月26日 (土) ポリテクセン

ター三重 (四日市市西日野町4691) にて開催しました。多くの方にご参加いただき、感謝申し上げます。令和4年度も6月末に開催予定、日時等決定しましたら、ホームページ (<https://www.jeed.go.jp/index.html>) 等でお知らせいたします。
③機構では「障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト」を実施しています。※ホームページに2月末募集要項掲載予定

【お問合せ】津市島崎町327-1 (ハローワーク津2階)
☎ 059-213-9255 FAX 059-213-9270

三重県ボランティア連絡協議会

新年明けましておめでとうございます。

平素は当会の事業等にご理解ご協力をいただいております事、感謝申し上げます。

今年度も開催された、芸術文化祭におきましては、昨年度に引き続きコロナ禍の開催で、感染対策等を取り込まれた安心の中で作品観覧を楽しんでみえる方達にも笑顔が見られました。県ボランティア連絡協議会は、来場された皆さんと会話も出来るお手伝いの場所でもあって、思いがけない出会いもあり、あっという間の数日間でした。

今後ここで得た出会い等に感謝して、皆さんに寄り添えるボランティア活動に邁進して行きたいと心新たにしました。

当会は今年度の視察研修会を防災意識の高揚を図る事を目的とした研修会を計画しています。昭和34年9月26日、実りの秋を間近に控えた、のどかな地域を襲い一瞬にして、尊い命が奪われた伊勢湾台風から早62年がすぎました。語り部さんによる体験談を聞き後世に繋げていく事の大切さを学びます。

開催日 令和4年2月5日 (土)

場 所 桑名市はまぐりプラザ


桑名市長島町輪中の郷資料館

今後共、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひします。

会長 川瀬みち代

事務局：三重県ボランティアセンター ☎ 059-229-6634

三重とこわか国体・三重とこわか大会
特別映像「選手に届け“とこわかのか”」
努力を重ねてきた選手の皆さん、
開催を心待ちにしていた皆さんへ
伝えなかった大切なメッセージを
全5話の映像でお届けします！
特設サイトはコチラ



2月頃 県内全ケーブルテレビ局にて全5話放送予定

ご協力のお願ひ

日頃は温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当事業所は、社会福祉法人日本身体障害者団体連合会協賛のもと、全国的組織で福祉事業を実施しています。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

日本身体障害者団体連合会事業所
(お問い合わせ) 電話 (フリーダイヤル)

0120-263-323

令和3年度三重県障がい者芸術文化祭

～つくろう つなごう 君の笑顔と文化祭～

12月3日（金）4日（土）津市芸濃総合文化センターに於いて、三重県障がい者芸術文化祭が開催されました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、作品展は来場者把握を行う事前申込み制（予約制）となりましたが、ステージ発表はWEB開催、表彰式は無観客で行いました。

障害のある方が自身の能力を発揮した作品展には絵画190点、写真15点、書道29点、陶芸16点、手芸51点、工芸86点、貼り絵・CG41点、俳句7点合計435点。共同作品17点、特別支援学校による展示が18点あり、芸術・文化活動に対しての活性化が図られました。

また、ステージ発表は8組の発表がWEB掲載されました。（開催後約1か月間掲載予定）

令和3年度三重県障がい者芸術文化祭の様子は下記の三重県障害者社会参加推進センターのホームページから閲覧することができます。

<http://www.mie-kensinren.or.jp/whatsnew/event20211203.html>



サブタイトル

令和3年度三重県障がい者芸術文化祭
～つくろう つなごう 君の笑顔と文化祭～



表彰式



会場の様子

三重県知事賞



絵画
あい愛



写真
さくらまんかい
桜満開



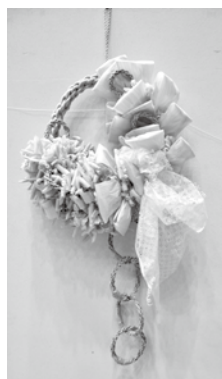
書道
ゆめ



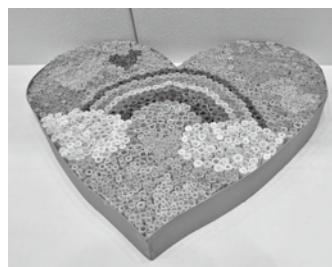
手芸
ツーウェイモダンベスト

初秋や
すがり立つ子の
二歩三歩

俳句



工芸
希望のリース



貼り絵・CG
れいんぼーはーと
Rainbow Heart



陶芸
ゴジラ

共同作品



特別支援学校の作品



ステージ発表



令和3年度三重県障がい者芸術文化祭 受賞者一覧

賞	部門	氏名	作品名(俳句)	所属等又は市町名
三重県知事賞	絵画	中山 善貴	愛	アトリエ ヒューマンエレメント
	写真	N i c k	桜満開	障がい福祉サービス事業所てんでん
	書道	山下 芭奈	ゆめ	三重県立聾学校
	陶芸	浜口 颯汰	ゴジラ	三重県立特別支援学校西日野にし学園
	手芸	井上スズ子	ツーウェイモダンベスト	やまなみの会
	工芸	桑木 雪美	希望のリース	NPO法人ふてい・ぼぬ〜る
	貼り絵・CG	西口奈津紀	Rainbow Heart	生活介護センターNEIRO
三重県議会議長賞	俳句	木村 靖子	初秋や すがり立つ子の 二歩三歩	明和町障害者の会
	絵画	鈴木 碧莉	サンゴ礁となかまたち	津市
	写真	大須賀健一	月に一度の親孝行	四日市市
	書道	三宅あやを	山家集	松阪市身体障害者福祉協会
	陶芸	鈴木 克彦	幸せを運ぶ十二支の宝船	きらめき工房いが
	手芸	森田 智子	虹	多機能事業所 工房いなば
	工芸	田中 順次	江戸時代の子供達	就労継続支援B型 ピュア
津市長賞	貼り絵・CG	川上 航	ワタシノモト	就労移行支援事業所ぐりー
	俳句	瀬川 令子	初夢やあれれれワタシ走れてる	大台町障害者福祉会
	絵画	坂本 翔太	南の島のカメレオン	シェアホームいちご
	写真	梶田 充浩	伊賀鉄道	きらめき工房いが
	書道	的場乃莉華	ののはな	ワークプレイス葉
	陶芸	中谷 早貴	忠愛のアマビエ	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	手芸	中川 結治	長野の夏の風景	NPO法人工房ゆう
実行委員会賞	工芸	森山桂太郎	万華鏡	三重県いなば園 もみのき寮
	貼り絵・CG	城田久美子	きよしとみちこ	社会福祉法人いずみTOINあーち
	俳句	下村 好子	軒の下 つばめと話す 母の声	大台町障害者福祉会
	絵画	中村 侑樹	僕のすきなもの	三重県いなば園 もみのき寮
	写真	山下 和江	河津桜	松阪市身体障害者福祉協会
	書道	稲垣 康夫	一期一会	生活介護センターNEIRO
	陶芸	高島 よう	きりんさん	きらめき工房いが
奨励賞	手芸	山本 力	毛糸日和	生活介護サービスあゆか
	工芸	長井 一真	ガリ2	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	貼り絵・CG	山本くみ子	すきないろ	多機能事業所 工房いなば
	絵画	福井とし子	昭和の女性	NPO法人工房ゆう
	写真	筒井 弘喜	初めての写真	指定障害者支援施設 聖愛園
	書道	神野 魁	三重県	亀山市
	陶芸	江藤 規彦	円盤	八野生活介護センター
賞	手芸	S・H	自分のしゅみ	四日市市
	工芸	岩田 征爾	千手観音	三重県身体障害者総合福祉センター
	貼り絵・CG	杉本 厚夫	大好きなSAKURA	きれいサポートステーション
サブタイトル	田牧 翔太	〜つくろう つなごう 君の笑顔と文化祭〜	松阪市	

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 令和4年 三重県交通安全県民運動 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

○三重県交通安全県民運動スローガン

やさしさが 安全つなく 三重の道
～ 歩行者の ハンドサインは 赤信号 ～

年間重点目標

- (1) 高齢者と子どもの交通事故防止
- (2) 横断歩道における歩行者優先の徹底
- (3) 歩行者の交通ルールの遵守の徹底
- (4) シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (5) 飲酒運転等の根絶
- (6) 自転車の安全利用の推進
- (7) 夕暮れ時又は天候に応じた早めのライト点灯の推進
- (8) 反射材用品の普及促進

期間を定めて行う運動

◆年間運動

思いやりとゆずりあいにて交通事故をなくす年間運動

◆各季運動等

- 春の全国交通安全運動 4月6日(水)～4月15日(金)
- 夏の交通安全県民運動 7月11日(月)～7月20日(水)
- 秋の全国交通安全運動 9月21日(水)～9月30日(金)
- 年末の交通安全県民運動12月1日(木)～12月10日(土)
- 夕暮れ時、ちょっと早めのライト・オン運動
10月1日(土)～12月31日(土)

日を定めて行う運動

交通事故死ゼロを目指す日

全国交通安全運動期間中に実施予定

交通安全の日 横断歩道“SOS”の日 毎月11日

高齢者の交通安全の日(セーフティー・シルバー・デー)

毎月15日(S・Sデー)

自転車安全対策強化日(セーフティー・バイク・デー)

毎月第一月曜日(S・Bデー)

三重県飲酒運転0をめざす推進運動の日 毎年12月1日

発熱等の症状がある方の受診方法について

発熱、咳などの症状がある場合、

(1) まずは、かかりつけ医等の身近な医療機関に、電話でご相談ください。

(2) かかりつけ医がない場合は、「こちら」から医療機関を検索ください。



- 診療時間や受診方法等が通常と異なる場合がありますので、受診前に電話等をお願いします。
- 相談先の案内に従って受診してください。



<受診・相談センター> 受診・相談センターでも受診できる医療機関を紹介しています。
9時00分～21時00分(土曜日・日曜日・祝日も対応)

桑名保健所	0594-24-3619	伊賀保健所	0595-24-8050
鈴鹿保健所	059-392-5010	尾鷲保健所	0597-23-3456
津保健所	059-223-5345	熊野保健所	0597-89-6161
松阪保健所	0598-50-0518	四日市市保健所	059-352-0594
伊勢保健所	0596-27-5140		

※21時00分から翌9時00分までは、三重県救急医療情報センター(059-229-1199)にお問い合わせください。

※電話での相談が難しい場合は、メール(covidan@pref.mie.lg.jp)またはFAX(059-224-2558)でご相談ください。



咳エチケットや手洗いで感染拡大防止へ

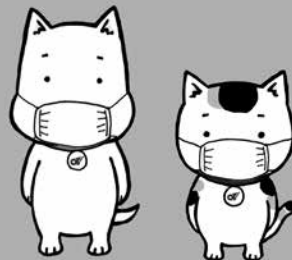


き〜ぼうとつむぎちゃんは県動物愛護推進センター「あずまいる」のマスコットキャラクターです

新型コロナウイルス感染症 基本的な感染防止対策の徹底にご協力をお願いします。

マスク着用

会話するとき、お店に入るときなどは、マスクを正しく着用



変異株でも、基本的な感染防止対策が有効です

家族や大切な人を守るため、日常生活での実践をお願いします

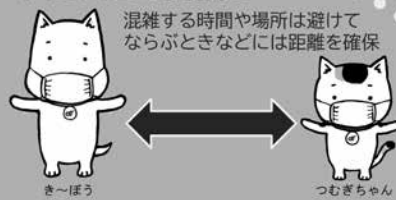
手洗い・手指消毒

石けんによるこまめな手洗い アルコール消毒剤等での手指消毒



人と人との間隔を

混雑する時間や場所は避けて ならぶときなどには距離を確保



き〜ぼう、つむぎちゃんは三重県動物愛護推進センターあずまいるのマスコットキャラクターです。

感染防止対策、相談窓口、感染状況などの情報は、三重県新型コロナウイルス感染症特設サイトへ



三重県新型コロナウイルス感染症対策本部

受賞おめでとうございます

◆第39回東海テレビひまわり賞

お ざわ とし あき
小 澤 敏 明 (菰野町)

2歳の頃にポリオに罹患し、右下肢機能障がいを負う。障害者雇用促進法が制定された翌年の高校卒業後の就職活動時はまだ障がい者の就労は容易ではなかったが、採用試験に合格し、JA三重厚生連の事務員として津の事務所へ勤務した。就職後も『障がい』を理由に甘えない、負けたくないという強い思いから、働きながら夜間の短大へ通い、自己研鑽に努めた。

平成30年から菰野町心身障がい者福祉会会長を務め、50年近く活動をしている。現在は福祉会の活動と並行し、身体障害者相談員として町内の身体障がい者の相談にあたる他、手話通訳運営委員会や公共交通会議などにも出席し、障がい者全体の福祉に力を注ぎ、魅力のある事業を企画実施していきたいと考えている。

◆三重県医療保健及び子ども・福祉関係功労者表彰

○精神保健福祉事業功労

かわ きた ひて なり
川 北 秀 成 (特定非営利活動法人 三重県
精神保健福祉会 理事・事務局長)

○福祉団体指導者功労

やま もと あきら
山 本 晃 (名張市身体障害者互助会 副会長)

○ボランティア功労

点訳グループくすの木 (四日市市)

視覚障がい者が本に親しむなど、文化にふれる機会を増やしたいという思いから平成元年に設立され、さまざまな本の点訳をはじめ、市立図書館での子どもを対象にした点字教室や、新たな活動者の育成などにも取り組んでいる。

南勢さえずり会 (南伊勢町)

南伊勢町が毎月発行する広報誌「広報みなみいせ」を音訳し、視覚障がい者にその音訳テープを郵送する朗読ボランティア活動を行っている。

◆障害者自立更生等厚生労働大臣表彰

○更生援護功労者

いの うえ おさむ
井 上 修 (津市身障者福祉連合会)

障がいに関わらず旅行が楽しめるよう旅行の会を立ち上げ、障がい者の社会参加に貢献するとともに、津市身障者福祉連合会会長を務めるなど、身体障がい者等の更生援護に尽力されました。

○身体障害者等社会参加促進功労者

し みず けい じ
清 水 系 慈 (名張市身体障害者互助会)

名張市身体障害者互助会会長や三重県障害者団体連合会理事等を歴任するとともに、障がい者スポーツの普及に尽力し、障がい者の社会参加の促進に貢献されました。

◆ボランティア功労者厚生労働大臣表彰

○表彰「個人」部門

おか ます よ
岡 益 代 (亀山市)

20年間にわたって広報誌等の音訳奉仕活動に取り組み、音訳奉仕団体のリーダーとして後輩の育成にも努めています。

○感謝状「個人」部門

ひろ の みつ こ
廣 野 光 子 (名張市)

がんや難病と闘う患者や家族の心の負担を軽減するような相談窓口の開設を名張市に提案し、「がん・難病患者相談窓口」が平成17年11月に開設されました。自らも開設当時より相談員を引き受け、自らの闘病経験をもとに患者や家族の相談に応じています。

◆生涯スポーツ功労者及び

生涯スポーツ優良団体の文部科学大臣表彰

三重県聴覚障害者女子バレーボール部

アイリス (代表者 和田和代)

定期的に練習会を実施し、聴覚障がい者の健康・体力づくりを進めるとともに、健聴者チームや聾学校バレーボール部と積極的に交流を深め、聴覚障がい者スポーツの普及・発展に貢献。年間活動回数も多く、主催事業の実施や大会等へ出場するなど意欲的に活動し、全国大会に向けて選手の発掘・強化を図り、障がい者スポーツの普及・啓発に貢献。

第67回三重県身体障害者福祉大会会長表彰

自立更生者

たけ うち しげ あき
竹 内 重 昭 (伊勢市)
木 戸 敬 (玉城町)

団体育成功労者

たに たけ ひさ
水 谷 武 久 (桑名市)
城 野 宣 子 (桑名市)
岩 田 美 貴 (四日市市)
中 垣 裕 行 (四日市市)
山 家 秀 子 (川越町)

こま だ だ けい え
駒 田 岸 江 (川越町)
加 藤 まさ 博 (川越町)
伊 藤 藤 幹 男 (菰野町)
藤 本 治 市 (鈴鹿市)
小 川 さよ 子 (松阪市)

やま もと やす まさ
山 本 泰 正 (多気町)
西 濱 濱 武 (南伊勢町)
東 康 弘 (伊賀市)
東 泰 一 (伊賀市)
辻 ふみ子 (名張市)

奉仕活動功労者

むら い みちよ
村 井 三千代 (津市) 三重県声のポスト友の会
佐 野 百合子 (鈴鹿市) 音訳グループ「鈴の音」

い とう
伊 藤 ますみ (鈴鹿市) 音訳グループ「鈴の音」
秋 庭 みゆき (四日市市) 四日市録音奉仕の会